

失語症学Ⅱ

[講義] 第2学年 後期 必修 1.5単位

《担当者名》若松千裕 wakamatsu@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

失語症学Ⅰで学習した知識をもとに、言語聴覚士として基本となる失語症の評価法・診断法・治療法の方法論を身につける。

【学修目標】

<一般目標>

失語症の評価診断と治療を行うために、失語症の評価診断、治療法を学び、失語症者へのリハビリテーションを理解する。

<行動目標>

1. 失語症によって生じる症状を解釈できる。
2. 主要な失語症タイプの言語症状を列挙できる。
3. 失語症のタイプ分類を含め、評価・診断の基準を説明できる。
4. 失語症の主要な症状と病巣との関連を説明できる。
5. 失語症の症状に応じた治療法について説明できる。
6. 失語症の回復・予後について説明できる。
7. ICFに基づいて、急性期・回復期・生活期の言語聴覚士の対応方法を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 失語症における言語聴覚療法	失語症の言語聴覚療法の流れについて学ぶ。失語症状とタイプ分類を学ぶ。	若松千裕
2	失語症の評価診断	非流暢性発話の分析方法を学ぶ。	若松千裕
3	失語症の評価診断	流暢性発話の分析方法を学ぶ。	若松千裕
4) 5	失語症の評価診断	復唱障害と理解障害の分析方法を学ぶ。読み書き障害の分析方法を学ぶ。	若松千裕
6	失語症の評価診断	鑑別診断が必要な言語障害について学ぶ。言語障害と病巣との関係を学ぶ。	若松千裕
7	失語症の治療	失語症治療の過程・理論を学ぶ。失語症の回復・予後予測について学ぶ。刺激法、Deblocking Methodを学ぶ。	若松千裕
8	失語症の治療	機能再編成法、実用的コミュニケーション方法、重度失語症訓練、構文訓練、発語失行の訓練、CI言語療法、非侵襲性脳刺激について学ぶ。	若松千裕
9) 11	失語症の治療	認知神経心理学的分析法を学ぶ。	若松千裕
12	失語症の治療	失語症の治療の急性期から生活期までの流れを学ぶ。	若松千裕

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート30% 定期試験70%

レポートや試験については、良かった点、誤った点について、全体あるいは個別にフィードバックする。

【教科書】

藤田郁代 他 編 「標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版」 医学書院 2021年

【備考】

Google Classroomを使用して課題の提示と提出を行う。

【学修の準備】

授業前に授業内容を確認して、教科書と配布資料からキーワードを中心に読んでおくこと（80分）。

授業後は、授業の内容を解釈・整理し、その内容を教科書と配布資料、授業中のメモで確認し、講義内容を理解する。（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP3. 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

DP4. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

若松千裕（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、失語症の診断・評価、治療・訓練に関する基本的知識および実践について講義する。